

# 湘南学園だより

No.107

 発行部  
 学芸部  
 湘南  
 学園  
 編集

## 初夏のオープン キャンプにて

学園長 藤岡貞彦

6月7日。「湘南の風を受けるオープンで和やかな学校生活」という呼びかけで、学園中学校のオープン・キャンパスがひらかれました。小学6・4年生と保護者多勢の皆さんの参加のもと、授業体験・クラブ体験・教育相談が行われ、私は、「教育講演会」を担当しました。

講演の冒頭、私は、まず何よりも、本校校舎のすみずみに立って、案内や説明をおこなっている生徒たちの表情、立ち居ふるまいに注目していただきたい、と申しました。あとで聞いたところでは、生徒会役員やクラブの生徒二百人以上が、このオープン・キャンパスの運営を助けていたということですが、明るい表情とキビキビした親切な対応で、参加者の皆さんにあたたかい印象を与えてくれたにちがいない、と確信していたからです。

つづいて、本学園の「建学の精神」を説明し、75年前の学園創設者たちの志を説明しました。それは、のちに、「個性豊かに、身体健全、気品高く、明朗で実力があり、社会の進歩に貢献できる、有為な人間の育成」とまとめられました。1930年代の半ばには、はるかに今日までを見通してつくられた「建学の精神」。こそ、学園の生命であり、学園の評価は、この精神が、いかに今、実現しているかにかかっている、と力説しました。たとえは「気品高く」とは、今日、どこでも強調されている国家や社会の「品格」に通ずるでしょう。「社会の進歩への貢献」とは、日本と世界の直面する課題と危機克服への「貢献」ととらえられます。学校評価が方々でとりあげられるようになりましたが、私たち学園関係者にとっては、建学の精神の実現こそが、そのまます学園評価になるのです。参加された方々が目にされた学園生たちの表情には、それがあらわれているのではないのでしょうか。

いいかえますと、学園への入学から卒業までの間に、建学の精神にそってどの様な人間形成がおこなわれていくかを、少しでも知っていただくことが学校選択の基準になる、ということとです。二・三の実例を、紹介しましょう。

今年春入学直後の新一年生のアンケートをみますと、「新入生歓迎会は、とてもすばらしいものでした。先輩方が私たちのために計画して下さい、とてもうれしかったです。」「私は、先輩のように、明るく、優しく接してあげられる人になりたいと思います。」「いま新たに楽しみにしているのは体育祭です。はくは、もともと体育の授業が好きだったので、初めて全学年の人たちと、楽しく運動ができることがすこくたのしみです。」「わたしは、入学するまで、授業に、対し、たくさん不安をかかえていました。でも今は、そんな不安はどこかへ消えてしまいました。それに先生のおかげで、以前にはきらいだった教科も、今では先生の話がおもしろくて、とても好きになりました。なので私は毎日自習パストを出した勉強をしたいと思います。」「とてもいい学校だな」と実感し、「私も来年の新入生をあたたくむかえたい。」「先輩のようにになりたい。」「毎日がんばりたい」といふ新一年生のアンケート

結果を、報告します。

5月に入つて中・高全学年の公開授業がおこなわれました。この場での保護者アンケートでも、「各学年を造っておだやかさを感じました。」「授業を受ける皆さんがおちついていて、大変好感をもてました。」「授業に一生懸命と取り組む生徒さんの姿が印象的でした。」「とあたたかい評価をいただいています。一年生の朝読書の時間に、保護者の一人の方が、十冊も本を推薦してくださっている、ともききました。PとTの協力の見本と、ありがたき思います。

さいに、一人の学園卒業生の実例を紹介して結びたいと思います。

二年前、私は、いわゆる難関大学の法学部を志願している高三生から、AO入試志望書をみせてもらったことがあります。「私は障害者専門の弁護士になりたいと考えています。」「とかきだされ、中学二年の時の特別教育活動から、障害児教育を志望するようになり、そこから一歩ずつ、障害者の権利を守る弁護士への道を歩むことを決意したいきさつが、くわしく書かれていました。昨年、志望通り、大学AO入試に合格しました。

青年には、さまざまな進路が待っています。日々の学習とともに中高での特別教育活動やさまざまな生徒会活動・クラブ活動をもへてこの出口へ到達したこの先望は、私のおもいがかく建学の精神を体現した沢山の卒業生の中の一人だと考え、ご紹介した次第です。

# ご挨拶

理事長 小田拓也

(2008年4月12日就任)

本学の最大の特徴は、保護者と関係教職員による、オーナーのいないユニークな経営形態にあるといえます。創立75周年を経た現在、私学のおかれている経営環境は公立校の巻き返し、さらには中高一貫校の新設が相次ぎ、学校間競争は激しさを増すばかりです。近隣エリアにおいても、定員割れに陥る学校も珍しくなく、本法人の使命はこうした環境の変化に対して受身になることなく、安定した教育環境を持続することにあるのではないのでしょうか。

本法人は、今年4月12日の評議員会を経て今期の実質的な活動を開始いたしました。これまでの良き伝統に加え、付加価値を高めることにより社会的、湘南エリアという素晴らしい環境を背景に、独自のポジションの確立が学校価値を高めることにつながるといえます。学校運営にあたり本法人のミッションは行動水位にあるべきだと思います。本学に学ぶ園児、児

童、生徒の成長を支える教育環境、教職員にやりがいを感じて頂く為の環境整備に向けた、具体的な行動による取組みが、独自のポジションを獲得することに繋がると考えております。

保護者、関係教職員による経営形態の強みは、参画するそれぞれの方々が、教育活動を実行する個教育を受ける個という、2つの立場を併せ持つことによって実践し得る、手作り経営にあると思えます。

この長所を最大限に生かしさらに血の通った形で承継してゆくために、皆様のご助言ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



北京風雷京剧团湘南学園公演によせて

孫悟空が湘南学園にやって来る！

中国の友を迎えて75周年を祝いましょう

この度中国の伝統文化の一つである京劇の全国公演が日中平和友好条約締結30周年にあわせ、開催されることになり、湘南学園でも実現の運びとなりました。今年も北京オリンピックの年でもありますが、学園にとりましても創立75年目の年でもあります。中国北京市の国家一級の劇団を迎え、交流できますことは、今後ますます求められる国際化の一環としても、また広く伝統文化に親しむ意味でも大いに喜ばしいことと考えております。

過日、7月7日に、保護者の皆様にご案内申し上げましたが、この佳き機会に恵まれて、来る10月22日(水)、学園アリーナにて北京風雷京剧団の公演となりました。県レベルを超えた単体の一地域はもとより、一学園での公演は史上初となります。児童、生徒に世界一流の芸術を鑑賞させることができるといえない機会でもあります。又PTA会員の皆様と教職員の皆様のご協力によって成功させることができます。好機は転機につながるものです。保護者、教職員み

んなで力をあわせて学園を発展させましょう。



## 記

日時 2008年10月22日(水)

第三回(幼稚園)小学校を対象とします

第二回(中学)高等学校を対象とします

開催場所 湘南学園アリーナ

参加対象者 湘南学園の児童、生徒、保護者(幼稚園・小学校は保護者同伴とします)

参加費 無料(希望者による「申し込み書」の提出をいたします)

交流会 「京劇」団員とPTAの交流会を当日の午前中に「かながわ女性センター」で予定しています。

北京風雷京剧団  
湘南学園公演実行委員会の紹介

実行委員長 (中学校・高等学校校長) 古市好文  
副実行委員長 (湘南学園PTA会長) 戸田 恵

PTA (総務) 鈴木由佳  
PTA (副総務) 芳士戸ルミ子

幼稚園(教諭) 能野貴美子  
小学校(小学校校長) 小山良昭

(児童会主任) 小林大介  
中学校高等学校(企画主任) 加藤正文

(教務主任) 清水一伸  
事務局(事務局長) 田中義教

(主任) 鈴木智子

## 幼稚園教育要領が改正されました

「教育基本法」が六十年ぶりに改正されました。それに伴い、学校教育法の一部、幼稚園教育要領の全部が改正され、平成二十一年四月一日から施行することとなっています。

幼稚園教育要領の改正で、総則の第一「幼稚園教育の基本」に改正前にはなかった次の文章が冒頭に付け加えられました。

「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は・・・と、幼児期の教育は人格形成の基礎で重要であると書き加えられました。今回の改正で、ようやく国も幼児教育の重要性にスポットをあて、幼稚園教育が人格形成に大きな影響を及ぼすことを、法律に明記したことになります。

学園幼稚園は、七十五周年を迎えますが、創立当初より、幼児期における教育は人格形成の基礎を培う重要なものであるとの認識をもち、その視点で教育をしてまいりました。引き継がれてきた教育は、「生き生きと元気に生活する子ども」をスローガンに、四つの目標をかかげています。

\* 自分で考え行動できる子ども  
(失敗を恐れず、自発的に行動する)

\* 自分の見たこと、感じたこと、考えたことを、自分の言葉で豊かに表現できる子ども

(自分の考えを、いつでもでも話し、自分の話したことには責任を持つ。人の話も聞く)

\* 相手を思いやる気持ちを持つ子ども

(友だちとのつながりの中で、共に喜び、悲しむなど、共感したり、感謝したり、されたりする経験を重ね、思いやる気持ち育てる)

\* 知識と心身の発達のパウンスのとれた子ども  
(いろいろなことに関心を持ち、気力、体力、耐久力を備えていく)

改めて、七十五年前に、湘南学園幼稚園設立に携わった方々の幼児教育に対する意識の高さに驚くとともに、それを継承してきた先輩の先生方の努力に敬服しないではいられません。

私は、まず健康であること。自分の力を信じ、元気に生きる力を育むことと考えます。子どもへの指

### 幼稚園園長 渡辺礼子

尊は、一人ひとりの教師が、自発性をどう引き出すことができるかを、機会、度合い、間合いのタイミングを、気で感じてとらえ、対応することだと思います。まだ言葉もおぼつかない子どもが相手のですから、教師は体で感じ、体で示すことが基本になります。

「まねる」が「学ぶ」になるこの時期、すべてのことに、教師が手本を示さなければならぬので、努力がいることもあります。心が通じ合えた時には、お互いに温かいものが流れるのを感じ嬉しくなります。

今年度から新たなころみとして、月に一回、園児と外国人講師と一緒に遊ぶ日を設けました。教室で授業のように英語を教えるのではなく、子どもたちと、どろんこ遊びやサッカー、歌ったり、ダンスや手遊び、お弁当を一緒に食べたり、また、各クラスをまわり、子どもたちのよく知っている絵本の英語版を読んでもらったりもしています。一日一緒に過ごしながら自然に外国語にふれ、異なる文化を持つ人を身近に感じ、子ども



たちの視野を広げていくことをねらいとしています。幼稚園では、外国人講師に英語のみで子どもたちに接してもらうことにしています。五、六月と数回経験した子どもたちは、すっかり慣れ、知って英語を使ったり、まねて言ってみたり、子どもたちの耳の良さには驚いています。

七月三日、四日、年長児のピクニックイベントである「お泊まり保育」が行われます。その日は鶴沼海岸商店街にカレーライスの材料を子どもたちと、デイトン先生も一緒に買い出しに行きます。どうなることやら、子どもたちの報告が楽しみです。



## 第三十六回交歓会

児童会主任 小林大介

四月二十三日(水)に第三十六回交歓会が行われました。

それは、一年生を迎え、児童会班で立体的な砂の造形物を作り上げ、お互いのつながりを深める事ができる行事なのです。

けれども、この行事は、教員が準備をして、子ども達が教員から与えられた事をやるだけの簡単な行事ではないのです。

今回、執行委員会が決定した目標は「一致団結」。テーマは「緑から思いつくもの」です。執行委員会は、中心になって交歓会を実施していきます。しかし、自分達だけの力だけでは、足りません。なので、五・六年生で構成している専門委員会にお手伝いをお願いしました。



学級委員会は、今回の目標とテーマを書いたポスターを制作しました。それはダイナミックに書き上げられ、学校内に掲示し、交歓会以前から気分を盛り上げました。

新聞掲示委員会は作品の写真を入った賞状を作成しました。そして、自主的に児童会班リーダーの写真とインタビューを載せた新聞を作成しました。

広報委員会はそれらの掲示物をキレイに掲示しました。

交歓会の表彰式では、集委員会がクラッカーや拍手など、音楽委員会はドラムとシンバルなどを使った音楽で迫力ある表彰式を演出しました。

執行委員会は、新しいことを取り入れました。どの砂の作品もすばらしいものばかりだったので、賞状だけではなく、児童会班担当の先生からコメントをもらうこととして表彰しました。

児童会班リーダーは、交歓会当日も班全体の事を考え行動しました。実は、交歓会当日までに児童会班の集まりが二回もありました。その集まりでは、砂の造形作品や班の目標を決定します。その時、児童会班リーダーは、話し合いを上手にまとめました。

今回の交歓会は、子ども達が自ら考え、「一致団結」して行動することができました。そして、一年生を迎え、お互いのつながりを深めることができました。

次回の児童会での大きなイベントは「たいいく表現まつり」です。今回の経験を活かし、子ども達の自主性や創意工夫を活かした行事にしていくってほしいと思っています。

### 《作品紹介》

- 一班：ゴーヤマン
- 二班：ルイージ
- 三班：カエル
- 四班：キヌウリを食べているカッパ
- 五班：江ノ電 まりもっこり
- 六班：カメロン
- 七班：まりもっこり
- 湘南パージョン
- 八班：四ツ葉のクローバー
- 九班：4つばのクローバー  
(へび・てんとう虫)
- 十班：マスカットを食べる青へび
- 十一班：モリゾーとキッコロ
- 十二班：マスカット
- 十三班：北海道
- 十四班：ヨッシー
- 十五班：キヤベツを食べてる青虫
- 十六班：キッコロもりぞう
- 十七班：非常口
- 十八班：カエル

## 海に親しむ活動

三年学年主任

五十嵐竹虎



梅雨入りにはまだ早い五月二十一日、入学してから初めての宿泊行事となる「三年野外体験教室」に行ってきました。

集合した藤沢サンパール広場の上空には灰色の雲が広がっていました。雨が降らないことを祈りつつ、一行を乗せたバスは油壺に向かいました。

午前中のメインの活動は、油壺マリンパークの方と一緒に行う「磯の観察」です。小形の水桶とすくい網を手にした子ども達は、開始の合図と共に大小様々ある潮溜まりに散っていきましました。じっと水面を見つめていると、小さな魚や貝が姿を現します。子ども達はすかさずこれらの生き物をゲット！短い時間ではありましたが、およそ二十種類の生き物を見つけることができました。

磯観察が終わると同時に、バケツをひっくり返したような大雨。全員で一旦散に水族館に非難して、どうにか事なきを得ました。

午後は、イルカ・アシカのショー見学の後、学園小の子ども達だけに、イルカやアシカの飼育法についてレクチャーして頂きました。華やかなショーの裏側を垣間見る

ことができました。続けてバツクヤード見学へと移り、こちらでも、普段見ることのできない水族館のまさに裏側を間近に見学することができました。午後のプログラムは、貴重な体験の連続でした。

二日目は、大雨洪水警報が出るほどの大荒れの天気だったため、予定していた「磯の観察会第二弾」は中止となってしまいました。しかし、今年度は雨天プログラムを綿密に計画していたため、大変内容の濃い時間を過ごすことができました。

前半は、乾燥した海藻などを使って「お手製のりがきづくり」をしました。はがきの裏面には色とりどりの海藻が貼り付けられ、楽しそうな雰囲気伝わってくる先品が出来上がりました。

後半は、海に関する五十問のクイズ大会を開催しました。和気あいあいとした雰囲気の中で、グループ毎に相談しながら難問に立ち向かっていきました。

天候には恵まれなかった二日間でしたが、子ども達の心の中にはたくさんの思い出が詰まった行事になったと思います。

## 「人・モノとの出会い」

六年学年主任 岸田修成

修学旅行三日目。班別タクシー行動から帰って来た子どもたちは、次から次へと話をしてくれました。タクシーの運転手さんをあだ名で呼んだこと。名刺をもらったことなど、目をキラキラと輝かせ、今日一日がいかに楽しかったか、新鮮だったかを口々に報告してくれました。

「銀閣寺」 男子児童

朝ごはんを食べて、タクシーに乗って出発した。初めは銀閣寺に行った。銀閣寺は修復中であり見られなかった。その代わり一生に一度しか見られない仏像を見た。仏像はお店のはじにある部屋にあった。その仏像は銀閣寺を修復しているときしか出さないうらしい。修復するのは四十五年くらいに一度。そこに仏像があることを知っている人は少なかった。

でも、運転手さんが知っていたから、一生に一度しか見られない仏像を見ることができた。

子どもたちの様子を見てみると、見知らぬ土地で初めての景色と出会い、地元の人と話をすることが、やはり旅の原点であり醍醐味であると感じました。

また、今年度の六年生の活動テーマになっている、「人・モノとの出会い、関わり」を子どもたちに深めてもらいたいという目的から、タクシー行動中に「体験学習」を組み入れました。

具体的には「清水洗絵付け」、「組紐」、「念珠」、「提灯」、「八ツ橋」、「西陣織り」など、地元の人との触れ合いを親密に持ちながら、少人数で体験ができる場所を選定しました。



子どもたちはモノ作りを通して、京都の人の言葉や文化を楽しみ、見学だけでは知ることができなかった文化や歴史の重さを五感で感じとってくれたに違いありません。

## 第4回中高新体育祭を終えて

## みんなで創った手作りの新体育祭

## 「今回の「新体育祭」を今後の「新体育祭」へとつなげたい」

「新体育祭」と銘打って始まった体育祭も今回で4回目を迎えました。5月の中旬ならば、カラッととした五月晴れを期待したいところなのですが、これも異常気象の影響なのでしょうが、5月の連休中から悪化ついた天気が続き、今回の体育祭当日は案の定「雨天」に。翌日に順延されて行われた今回の「新体育祭」でしたが、当日は前日の雨もすっかりあがって太陽も顔を出し、爽やかな天候の中で盛大に行われました。

今年の「新体育祭」のテーマは「楽しくなければ体育祭じゃないじゃんけ」：一見すると安易なテーマだと思われがちなのこのフレーズなのですが、これは前年度からの体育祭準備委員会にはじまり、新学期がスタートしたばかりの4月中旬に行われた1泊2日の実行委員会の幹部会合宿で、「みんなが楽しめる体育祭を」という思いを込めるために、喧嘩喧嘩（けんけん）がくがく」の議論を交わす中で決めたテーマでもありました。合宿での議論はテーマ決めでありありません。競技の内容やルー

ルに至るまで、どうしたら今までにない新しい体育祭が創り出せるのだろうか、お互いの意見をぶつけ合いながら、合宿が終わった日から体育祭の前日まで、実行委員の幹部の生徒諸君が毎日のように会議を重ねて、みんなで決めて実施した体育祭でした。実行委員幹部の生徒諸君のこうした奮闘なしには、体育祭の成功はあり得ないことを、今回も大いに見せつけられました。

今年の「新体育祭」は、5月の連休明けからすぐに全体パレードなどの練習が組まれるなど、日程的にも大変きついスケジュールで行われましたが、短い期間ながらも高2のリーダーをはじめとした実行委員以外の生徒諸君も、この「新体育祭」を成功させるために大いに頑張ってくれました。そして、湘南学園中高の体育祭の良いところは、この「祭り」はみんなを取り組む「手作り」なところ。パレードで使うオブジェにしても、各色のパネルにしても、競技で使う用具にしても、今年からカラー刷りになったパンフにしても、み

んなで協力しながら、ほとんどすべて自分達で作ってしまうという、とてつもない業（わざ）を短期間に成し遂げてしまうのですから、こうした生徒諸君の持つエネルギーには、毎年のことながら驚かされるばかりでした。そして、今年の総合優勝は「海」をアビールしてくれた青組でした。

とは言え、今回の体育祭では今後に向けた諸課題も見えてきました。競技時間が大幅に延びてしまった反省や、そうした事態を招いてしまった競技内容をもう少し精査すべきであった点。色全体の応援を促す応援席でのリーダーのあり方など、こうした課題には、みんなで創り上げた今回の「新体育祭」を、さらなるレベルアップで新しいものにしてもらいたいという私達の熱い願いがあります。今回の新体育祭のテーマにもあるように、どうしたら多くの生徒が楽しめる体育祭になるのか、そしてどうしたら一人でも多くの生徒が体育祭の輪の中に取り込むことができるのか、という「崇高な」目標に向かって、来年の新体育祭に

生徒会指導主任 緒方哲也

つなげて行ってもらいたいと思っています。



## 大学入試の現状

学習進路指導主任 川崎健一

二〇〇八年入試を振り返ってみると、入試全体では競争が緩和傾向にあります。その大学の難易度によらず大きく異なっていることがうかがえます。私立大一般方式の実質倍率を見てみると、偏差値60以上の大学は高倍率を維持しているのに対し、偏差値50未満の大学は実質倍率が2倍を下回りました。さらに、ここ数年で偏差値50、60の大学の実質倍率が低下したことで、全体として大学間の格差が拡大し、入試競争の二極化が顕著になってきています。国公立大一般入試は私立大と比較し、後期日程を縮小する、または廃止する動きが活発となり、全体として競争が継続する傾向にあります。それでも、難易度の高い大学で高人気が続く一方、その他の大学では実質倍率が低下傾向になります。

大学の学部・学科の新設・改組の動きからもまだまだ目が離せません。特に工学系統の学部・学科での動きが目立っています。青山学院大や法政大のように1年で複数の学部・学科を新設する大学もあり、入試競争の残る難関私立大であっても、今後の少子化を見据え、受験生を獲得するための施策が急ピッチで進められているといえます。新設・改組初年度の入試は高倍率になっても2年目は志願者が減少し競争が緩和されるケースもあります。本校の生徒諸君も新

設・改組されることそのものに注目するのではなく、「何を学びたいのか」の視点から大学・学部選びをしていくことが重要です。

このような大学を取り巻く環境の変化に対応できるように、今年度より高校生の学習指導においていくつか変更をいたしました。

一つは校内実力試験を廃止し、学年全員で受験する外部模擬試験の受験回数を増やしたことです。全国模試での相対的な学力の位置を把握することによって、第一志望校まであと何点必要なのか、夏休みなどの期間を有効に使うべき科目・分野は何なのかをしっかりと把握してもらおうというのが狙いです。

変更の二つめは夏期合宿講習の再開と合わせて、夏期講習の全体像を見直したことです。生徒のニーズにあつた講座・弱点を補強する講座などを今までより、柔軟に設定できるようになものに変更いたしました。生徒諸君の一人一人の学力を伸ばしつつ、希望する進路を実現できるように学校としても取り組んでまいりたいと思っております。

最後に二〇〇八年入試の結果をご報告させていただきます。合格者全体の数、難関大合格者の数、ともに伸び悩み、全体の学力の引き上げと進路指導の強化という課題が克服できたとはいえない結果となりました。本校の持つ課題とさらしつかりと向き合い、よりよい指導を心がけていきたいと思っております。

## — 2008年大学入試 合格実績 —

国公立大学	人数	現	浪
東京 京	1	1	0
東京 工業	1	0	1
東 北	1	0	1
山 梨	1	0	1
横浜 国立	1	0	1
埼 玉	1	0	1
愛 媛	1	0	1
東京 海洋	1	0	1
横浜市 立	1	0	1
国公立大学計	9	1	8

私立大学	人数	現	浪
愛知 医科	1	1	0
青山 学院	9	9	0
桜 美 林	2	2	0
大妻 女子	1	1	0
学習 院	5	4	1
学園 院 川	2	2	0
神奈 川 工	11	10	1
神奈 川 工 科	2	2	0
神奈 川 歯 科	1	1	0
関東 学院	13	12	1
北 聖	7	4	3
京 都 薬 科	1	0	1
杏 林	1	1	0

国立 音楽	1	0	1
慶 應 義 塾	4	2	2
工 学 院	3	3	0
調 神	6	6	0
相 模 女 子	1	0	1
産業 能 率	1	1	0
芝 浦 工 業	2	2	0
社会 事 業	1	0	1
上 智	7	7	0
湘南 工 科	1	1	0
紹 和	3	3	0
紹 和 女 子	3	3	0
紹 和 薬 科	2	2	0
女子 美 術	1	1	0
杉 野 服 飾	1	1	0
成 誠 舘	4	3	1
成 誠	9	9	0
聖 心 女 子	1	1	0
聖 クリス トファー	1	1	0
専 修	11	10	1
洗足 学園 音楽	2	2	0
大 東 文 化	1	1	0
拓 殖 殖	2	2	0
多 摩	1	1	0
玉 川	6	6	0
多 摩 美 術	2	0	2

中 央	13	13	0
帝 京	4	2	2
帝 京 平 成	1	1	0
東 海	10	8	2
東京 工 業	2	2	0
東京 造 形	2	0	2
東京 電 機	1	1	0
東京 農 業	8	5	3
東京 報 社	1	1	0
東京 薬 科	1	1	0
東京 理 科	2	1	1
東 洋 邦	1	1	0
東 洋 英 和	5	2	3
東 洋 英 和	10	10	0
日 本	21	16	5
日 本 歯 科	1	1	0
日本 社会 事 業	1	0	1
フェリス 女 学 院	7	7	0
文化 女 子	2	2	0
文 教	1	1	0
法 政	2	1	1
武 蔵	1	1	0
武 蔵 工 業	5	5	0
武 蔵 野	1	1	0
武 蔵 野 美 術	1	0	1
明 治	13	5	8

明 治 学 院	16	14	2
明 治 産 業	3	3	0
日 本 歯 科	1	0	1
横 浜 薬 科	1	1	0
立 教	6	5	1
立 正	1	1	0
立 命 館	1	1	0
和 光	2	2	0
早 稲 田	3	2	1
私立 大学 計	284	234	50

短期大学	人数	現	浪
南山 学 院 女 子 短 大	3	3	0
法 政 学 院 女 子 短 大	1	1	0
文 教 女 学 院	1	1	0
東 京 文 化	1	0	1
短期 大学 計	6	5	1

専門学校	人数	現	浪
国際 文 化 理 容	1	1	0
東京 工 科 白 動 車	2	2	0
東京 トリア アート	1	1	0
ベル エポック 美 容	1	1	0
専 門 計	5	5	0

※平成19年度 卒業生 140名

